

曜変天目茶碗

連休中は原稿締切に追われ、毎日のように図書館に通った。おかげで締切までに原稿を書き終えることができた。それで連休後に、朝早く奈良へ行った。難波から快速急行に乗り、車窓からの景色を楽しんだ。前にも書いたが、大阪鶴橋からゴミゴミした景色が続くが、生駒山トンネルを超えると、邸宅が目に入ってくる。奈良らしさも感じられ、その変化に興味をそそられる。

奈良公園で、鹿の集団が寝そべっているのを初めて見た。まだ「営業開始」前なのだろうか。昼前に通ったら、鹿煎餅をもらうために、外国人観光客らに愛想よく振舞っていた。鹿の話は、この辺にして、本題に移りたい。

今回の奈良行きは、写真の奈良国立博物館で開催されている「藤田美術館展」である。連休後で朝早いので、てっきり空いていると思っていたら、博物館前にはすでに長い行列ができていた。びっくりした。

案内チラシから一大阪市の中心部にある藤田美術館は、国宝9件、重要文化財53件を含む世界屈指の日本・東洋美術のコレクションを所蔵する美術館です。明治期に活躍した実業家・藤田傳三郎(1841~1912)とその息子平太郎、徳次郎の親子3人によって収集された美術工芸品を公開するため、昭和29年(1954)に開館しました。約2千件におよぶコレクションは、茶道具、水墨画、墨蹟、能装束、絵巻、仏像、仏画、経典、仏教工芸、考古資料など多岐にわたり、その中には奈良にゆかりのある仏教美術が数多く含まれています。このたびの展覧会は、2022年春に予定されるリニューアルオープンの準備に向けて現在休館している藤田美術館の名品を奈良国立博物館新館の全展示室を使用して紹介するかつてない規模の展示となります。

やっと入館して、再び長い行列の仲間入り。標題の小さな茶碗を内側まで見るためだ。国宝の名碗あり、「瑠璃色の曜変と呼ばれる斑紋は、まるで宇宙に浮かぶ星のように美しい輝きを放ち、優麗な華やかさを誇っています」と。その通りだ。40分ほど並んで、その優麗な美しさを味わうことができた。それにしても、しかと？ 疲れた。

(2019年5月14日)

